

# 東京都新島村 式根島診療所



井岡大輔

(東京都出身第27期生)

# 式根島ってどんな島？



東京都新島村に所属

面積3.9km<sup>2</sup>

人口約600人

高齢化率34%

(伊豆・小笠原諸島で最高の数値！)

ちなみに東京都全体で19%

新島まで村営船が1日3往復

東京まで160km

竹芝棧橋(浜松町)から東海汽船

大型船で7時間

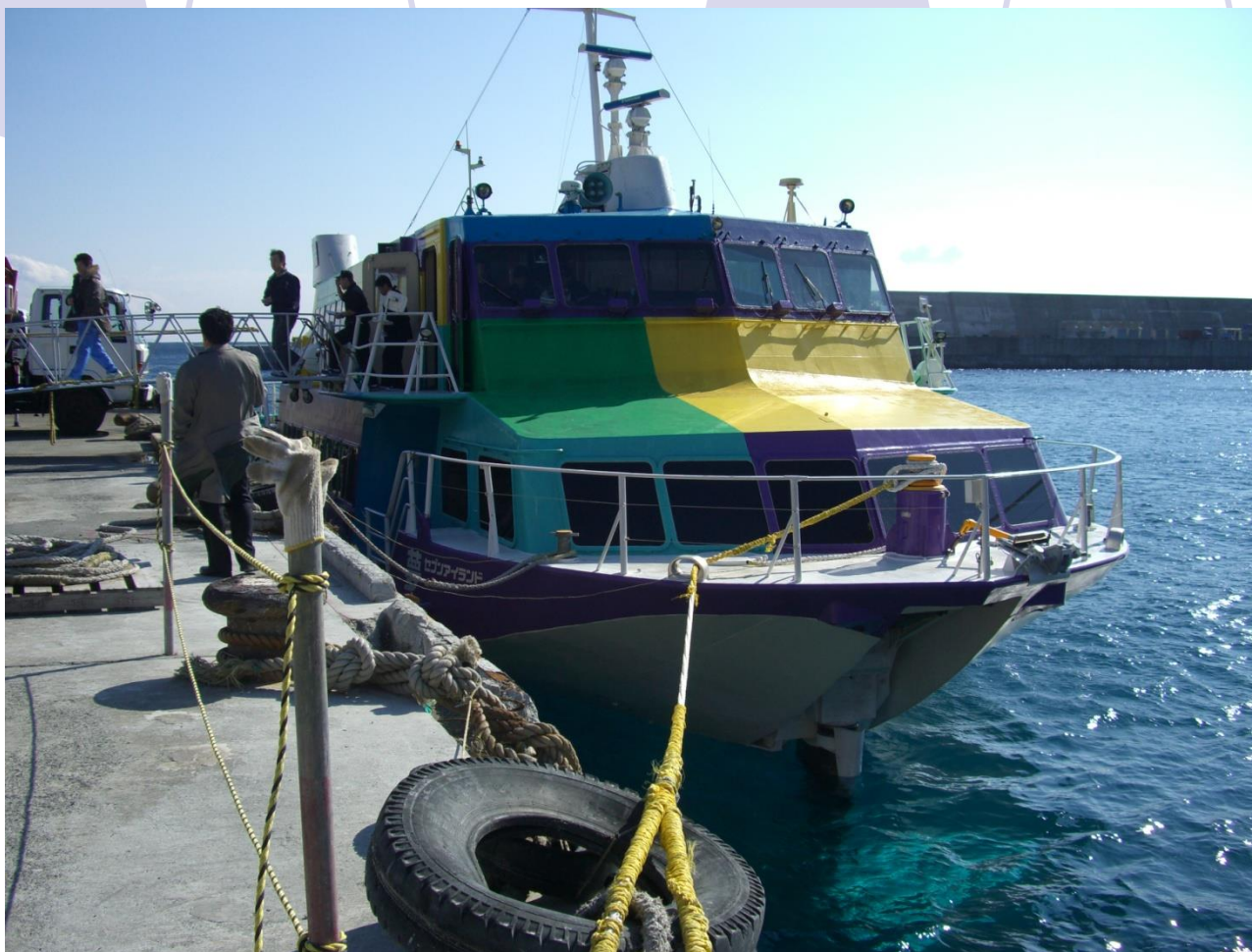
ジェットfoilで3時間30分

下田(静岡県)まで36km

神新汽船の大型船で3時間30分

いずれも荒天でしょっちゅう欠航する

島が九つなのに伊豆七島というのは  
式根島と青ヶ島が除かれているから、  
という説もある...



東海汽船自慢のジェットfoil  
意外と揺れなくて快適！80km/Hも出る

# 式根島の歴史

伊豆諸島の中では最も歴史が浅く、明治21年(1888年)に新島から4世帯8名が移住してきたのが始まり  
開発センター前には開島百年記念碑がある。  
ただ、近海を往来する船が風待ちのために入り江に避難してくることはあった  
水源の確保には先人達も苦勞したようで、「まいまいず井戸」という深い穴が残っている  
その後、海水の淡水化設備を建設したがあっさり故障し、今では隣の新島から海底送水管を通して水道水を引いている  
(なかなかおいしい水)



# 式根島の特徴

主要産業は観光と漁業

海水浴場や泉質の違う複数の温泉があり、小さい島ながら人気がある  
夏場は人口がふくれあがり、普段静かな島の様子は一変する  
魚介類はイセエビやシマアジが特においしく、  
他にもタカベや赤イカ、カンパチといった海の幸が豊富である



観光ポスターによく登場する温泉



新鮮なエビは焼いたり刺身にしたり

# 医療の風景

## 式根島診療所（島内で唯一の医療機関）

日常業務は全科に亘る外来、在宅医療

外来患者数は20～30人/日

学校医業務は小中学校が一校ずつ

乳幼児検診、妊婦検診、予防接種

ベッドは2床だが一泊入院が精一杯  
実質、無床診療所

スタッフ

医師一名、看護師二名、事務一名



# 診療所の実情

自治医科大学からは平成13年4月より派遣開始(小生が7代目)  
それまでは東京医大の医師が短期派遣されていた

## ★設備

心電計(故障寸前...)、除細動器、超音波(経膈プローブ無し...)、  
血球測定器、ドライケム、遠心分離器、HbA1c測定器、顕微鏡(故障中)  
単純X線撮影機(CR、透視は不可)、介達牽引装置

## ◎隣の新島に行けばあるもの

CT(古い)、上部消化管内視鏡、血液透析設備、スリットランプ、  
疣贅処置用液体窒素、老人ホームなど(ショートステイに行く人も多い)  
眼科、整形外科などの巡回専門診療が年に数回新島に来るが式根島には来ない

新島の診療所に検査を依頼することも少なくないが、どうせ島を出るなら一緒、  
ということで内地の病院へ行く人の方が多いように感じる

# 式根島の患者さんの特徴

- 生活習慣病が非常に多い(特に糖尿病)
- 肥満傾向の子供が非常に多い(お年寄りがお菓子をたくさん与えているのが遠因か?あまり運動もしていない様子)
- 夜間や土休日に急病になっても翌朝や月曜日まで我慢してしまう人が多く、思いもかけない重症に進展してしまうケースもある
- 風向き次第で「三宅島の火山ガス」が流れてくると蕁麻疹や喘息発作を発症する人がいる
- 三宅島の噴火以降不眠症が急増し、眠剤を処方されている人が非常に多い
- ムカデに咬まれる人が多い
- 釣りに絡む事故も多い(釣り上げた小型の鮫がはねて背びれが刺さったとか)
- 夏場は観光客が多く、ウニを踏んだり転んだりした急患を診ることが多い
- 意外と外国人観光客が多い(英語ができない小生は大変!)
- ツツガムシ病が年に数例発生する
- 妊婦さんは少ない



# 急患搬送

島での対応が困難と判断されれば内地の後方病院へ転送を検討する  
上肢の骨折など軽症なものは定期船などの交通機関を使ってもらう  
独歩不能、緊急を要するものは東京消防庁にヘリ搬送を要請する  
添乗医は当番の自治卒医や都立病院勤務医、受け入れ先の医師など

よく入院をお願いする都立広尾病院までは、搬送決定から病院搬入まで  
約4時間弱といったところ  
近年は夜間も飛行できるようになり24時間の搬送依頼が可能  
もちろん悪天候(強風、濃霧など)のときはフライト不能である

東京消防庁が擁する  
スーパーピューマ型ヘリコプター  
機内は意外と広く、  
救急救命士も添乗してくれる



# ヘリ搬送の実情

- 式根島では年間10件未満
- 平成20年度はまだ1件のみ(79歳女性の敗血症性ショック)
- 搬送決定から島の緊急ヘリポートにヘリが到着するまであまり時間が無く、診療情報提供書作成や家族への説明など対応に追われかなり慌ただしい
- よくヘリ搬送の対象になるのは脳血管障害、虚血性心疾患、虫垂炎、吐血、痙攣発作、溺水など
- 機内で急変しないよう、診療所にいるうちにできる限りのセッティングをしなくてはならない(振動の激しい機内では聴診や挿管も困難！)

# 診療所医師の休日

土休日は基本的にフリー

しかし急患対応はしなくてはならないため島からは出られず  
なおかつ携帯電話の電波が入るところに常駐することになる  
温泉センターで一風呂浴びたり、港で釣りをしたりすることは可  
魚介類がたくさん手に入るので料理が楽しい  
年に4-5回は短期休暇がもらえるので上京することもある



魚やイセエビのさばき方が自然と上達する  
食べ過ぎに気を付けないとね



# おわり

「馬の頭が海水を飲んでいる」  
ように見える？

2008年6月 式根島大浦海岸にて